

K 基調講演

1日目(9月15日)

開催趣旨

CBI学会の活動30年を記念した本年の大会は、これから30年間も活発な活動を継続していくために、活動目標と組織をどのように見直したらよいかを考えてみる機会とすることとした。そのために関心領域である、Chem- BioInformaticsに大きな影響を及ぼすであろうと思われる基礎科学、生物医学、情報技術ITの進歩と、製薬をめぐる経済的社会的な環境変化を検証してみることにした。

その一環として、この基調講演ではまず、ICT(Information & Communication Technology)と略称される計算機と通信技術が、近未来にどのように発展するかを予見していただくこととした。次に、CBI学会の中核となる医薬品開発の挑戦課題として、市場が狭く、これまでは製薬企業が参入を躊躇っていた、希少疾患Rare&Neglected Diseaseに、アカデミアから挑む試みを紹介していただき、最後に、進歩が加速している生物医学を象徴する研究領域として人工多能性幹細胞(iPS細胞)の医薬品開発と関連の深い最新の話題を紹介していただくことにした。

それぞれの話題で、実際に活躍されている我が国の第一人者である講師によるこれらの興味深い話は、明日の科学と技術とCBI学会とのつながりを考えさせてくれる貴重な機会であり、研究者だけでなく、ICT、生命科学、医薬品開発に関心のある幅広い方々の参加を期待したい。

座長：小長谷明彦(東工大) 河合隆利(エーザイ) 堀内正(慶大)

プログラム

K1 : 10:00-10:40

「コンピュータ技術の進歩と科学へのインパクト」
小柳義夫(工学院大)

K2 : 10:40-11:20

「in silico創薬科学は稀少疾患治療薬の研究開発を可能にするか？」
平山令明(東海大)

K3 : 11:20-12:00

「iPS細胞技術を用いた再生医学・創薬研究」
岡野栄之(慶大)